

千葉歴史の散歩道

やわた 八幡の藪知らず

千葉県教育庁教育振興部文化財課技師 佐山 淳史



JR総武線本八幡駅北口から徒歩5分、市川市役所の向かい側に小さな藪がある。藪の目の前を通る国道14号には多くの車が行き交い、裏手には商店街が広がっている。人々の生活の勢いに押されて少し肩身が狭そうにたたずんでいるこの藪は「八幡の藪知らず」として知られている。

この藪は、入った者が二度と出てこれないと言われ、江戸時代の後期ころには文献にその名前が確認できる。現在でも広辞苑に記載されており、それなりに有名だといえるだろう。筆者は市川市の出身であり、小学生くらいになるとこの藪に関するうわさをいくつか耳にした。入ったら出てこれないというものが多かったが、子供心に、向こう側が見えるような藪なのになぜ入ったら出てこれなくなるのか疑問に思ったものである。なかには毒ガスが湧き出ているなどといううわさもあり、藪の前を通りすぎるときに息を止めていたこともあったが、怖がるというよりも面白がっていたと思う。

この小さな藪がなぜ入ってはいけない場所として伝えられているのか、調べてみたことがある。結局、その理由についてはよく分らなかったが、調べる過程で様々な話が伝えられていることが分かった。平将門の乱に関係した場所であるとか、はたまた、水戸黄門が諸国漫遊の際に入って迷ったという話も存

在する。他には、過去に行徳の入会地（共同で使う土地）で、地元八幡の人たちが自由に使えなかったとか、近くにある葛飾八幡宮で放生会ほうじょうえと呼ばれる儀式を行っていた池の跡だから入ってはいけない場所とされたなど、話の内容は多岐にわたるが、どれも真偽のほどは分からない。どうやら、この藪が人々の想像力を刺激し続けてきたことだけは確からしい。

現在、藪はぎりぎりまで開発されながらも、依然として入ってはいけない土地、すなわち「禁足地きんそくち」とされ、その異様な存在感は健在であるように感じられる。きっと、いま藪の近くに住む子供たちも様々なうわさ話を語っていることだろう。その中には数十年前までは無かった話があるかもしれない。市川市八幡近くにお住まいで、機会があるなら、子供たちに藪についてどのようなうわさがあるか聞いてみてはいかがだろうか。時代とともに遷り変わる話の中には、世相を映すものがあるかもしれない。



八幡の藪知らず

千葉教育 菊 (No. 664) 令和2年10月29日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 櫻井 比呂樹
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465